視点

群馬の医療と言語・文化を考える会代表

原（はら）　美雪（みゆき）　前橋市三俣町

必要時に利用者本位で

7年前、2度目の群馬での新しい生活が始まりました。仕事の傍ら、前橋市国際交流協会の日本語ボランティア、群馬県の医療通訳ボランティアとして活動を始めました。外国の方を日本の社会につなぐ活動です。日本で生活する皆さんの背景を理解し、必要な情報は何なのかを把握することが大切になります。

群馬大の多文化共生推進士養成講座や母校の東京外国語大の多言語・多文化社会専門人材養成講座で学ぶ機会に恵まれ、日本に住む外国の方を理解するには、多文化共生の視点から日本社会を捉える方法があることを知りました。

1980年・90年代、日本経済が繁栄する中、入管法の改定を経て工場などで働く中南米の日系の人々、アジアから来日する人々が急速に増えました。彼らはやがて家族と日本に定住し、生活者として私たちと共に生きる人々となったのです。

留学生や日本人の配偶者、企業や工場で働く方、技能実習生、経済連携協定のもと外国人看護師・介護士として学び、働く人など、実にさまざまな方が私たちの周りで生活し、日本の社会を支えています。それぞれの社会で生活を楽しみ、仕事や交流の機会を持ちながら刺激し合えるような関係が発展してほしいと思います。

今、日本全国の在留外国人数は約230万人。群馬県では4万8千人を超えています。群馬では、国籍別ではブラジル、中国、フィリピン、ペルー、ベトナムの順、東部地域では圧倒的に中南米の方、西部・北部ではアジア系の方が多く住んでいます。

外国の方に「日本の生活はどうですか」と尋ねる調査が長年、日本全国、さまざまな機関で行われています。

外国の方が不安に思い、必要とする情報は、安心・安全に生活するためになくてはならない医療や福祉、労働に関するものです。日本に長年住む方でも答えは同じです。なぜなのでしょう。

一つの理由は言葉にあります。日本語はとても習得が難しい言葉です。流ちょうに話ができても、ひらがな・漢字・かたかなまで使いこなす方は多くはありません。日本語を母語とする私たちには、そこが理解できません。

仕事に忙しい方は日本語を学ぶ機会がありません。一つ屋根の下で暮らす家族の中でも、日本で生まれ育った世代が親の世代とコミュニケーションが十分にとれないという状況が生じています。ともに暮らす社会を考える時、私たちはこの事実をしっかり認識することからスタートしなければなりません。

また、情報は利用者中心に集め直し、必要とされる時と場所で、アクセスしやすいツールとわかりやすい言葉で届けられてこそ生かされます。ワン・ストップ・サービスは情報格差の解消にも有効な、人にやさしい環境です。

【略歴】東京都出身。東京外語大卒。外務省で在インドネシア大使館などに勤務。2013年に群馬の医療と言語・文化を考える会を立ち上げ、医療通訳の普及に尽力。

ホームページでも見られます。
アドレスは　http://www.jomo-news.co.jp/

オピニオン21

情報と言葉

千通りの幸福、生き方模索を

三上　隆志（前橋市・56）

広告大手電通の新入社員だった高橋まつりさん＝当時(24)＝の過労自殺から1年が過ぎた昨年末、厚労省が電通と当時の上司に当たる幹部1人を書類送検した。それを受け、この問題が再びクローズアップされていた。まだあどけなさが残るかわいいお嬢さん。いくら有能とはいえ、命を絶つほど仕事させられるなんて不条理極まりない。

「業績アップのため」「生き残りのため」という企業側の勝手な論理を押しつけられ、体や心を壊してしまっている若者が、潜在的にたくさんいるのではないかと私は心配している。

パワハラやモラハラがまん延している日本社会で、高橋さんの死が強く語りかけるのは「勝者という幻想にだまされるな」ということである。

「業績アップ」などとご託を並べる人間が、どれほど社会に功績を残したかは疑問である。現代日本は拝金主義である。「勝って金持ち」に「幸福」というレッテルを貼りつける。でも、それが本当の幸福なのか。

これからの日本を生きる若者たちに伝えたいのは「戦力」ではなく「千士力」になれということである。生き方は模索すれば千通りの幸福がある。「戦士」ではなくになってほしい。

寒梅　幸子（高崎）

妻と2人で初の元旦コンサート

井上　隆司（高崎市・75）

「ときの高崎市民之碑がある群馬建つ」の石碑がある群馬音楽センターで第27回元旦コンサートが開かれました。私は毎年一人で欠かさず鑑賞してきましたが、今年は初めて妻と二人で足を運びました。

元日は、翌2日の家族合同の新年会の準備で目の回るような忙しさなので、妻を誘う機会がなかったのだと思います。

広場でくつろぐ人がいれば、昼食を取る人もいます。私たち二人もベンチで軽食を取っていると、隣に本庄から電車で訪れたという人が「高崎の駅前がにぎやかで例年と違いました」と話しかけてきました。そういえば、今年は駅前で「だるま市」が初開催され、ニューイヤー駅伝、元旦コンサートと重なりました。

飯森範親さん指揮、群響の演奏でベルディやプッチーニのオペラ曲が始まりました。演奏に合わせ、青木エマさんが細い体から鈴虫の鳴き声に負けない高いソプラノを響かせ、力まない姿勢から広がる又吉秀樹さんのテノールの響きに酔いしれました。

妻は「元日から、こんなに人が集まるの、どうして」と満席の会場に不思議そうでした。人それぞれの元日の楽しみ方があることを再認識したひとときでした。また、来年が楽しみです。

上泉伊勢守顕彰会 新陰流稽古を見学

渡辺　恵（高崎市・52）

前橋市上泉町の桂萱中剣道場で、地元に生まれた上泉伊勢守信綱が創始した剣術である新陰流の稽古が行われました。上泉伊勢守顕彰会の宮川勉さんを中心に行われた稽古を、説明を受けながら見学させていただきました。

稽古は、道着とはかま姿で、袋竹刀を使います。牛の革に赤漆を塗った革袋の中に、割り竹を入れた独特の竹刀です。新陰流では、竹刀を構える基本の形を「無形之位」というそうです。「構え」と言わずに「位」と呼ぶそうですが、そこに奥深さを感じ、とても難しい刀法と思いました。

真実の人の姿を求めた信綱ですが、「真実」を見極めることがどれほど難しいか。

北原白秋に「巡礼」という名の詩があります。

真実諦めただひとり
真実一路の旅をゆく
真実一路の旅なれど
真実鈴ふり　思ひ出す

真実をただ一筋に追ってゆく旅であっても人は迷います。その時、鈴を鳴らして自分を戒めるのです。

テレビで信綱のドラマを放映するそうですが、どんな「剣聖」の姿が見られるのか期待しています。舞台になった群馬の美しい山河も楽しみです。

昭和の正月と今は昔の遊び

須藤　賢（前橋市・79）

「大みそかに早寝すると白髪になる」との言葉を信じた子どもの頃、眠いのを我慢してラジオから流れる除夜の鐘を聞きながら寝てしまった。

目が覚めると、もう用意してある雑煮を食べて登校する。その頃は学校行事で毎年元日に式典が行われていた。紅白の幕が張られた寒い校庭に全生徒が整列し、君が代を斉唱。校長や担任の話を聞いて式が終わった。

家に帰れば、近所の仲間が集まり、即遊びに興じた。テレビがない時代。寒さにめげず外遊びがほとんどで思いのまま暗くなるまで遊んだ。夜は食事を済ませて、すごろくや花札でも遊んだ。

「トッコ」という遊びもあった。半紙大の紙に地味な絵柄があった。「矢羽根」「つる」「升」「仙」「しまだ（まげ）」、そして「車」。この車の字を「トッコ」と言った。好みの絵の上にアメや菓子などを置き、その紙の両側に丸めた笈（おい）が貼ってあり、これを順次剝がし広げて、自分の置いたものと同じ絵柄が出れば総取りという遊びだった。

スマホやテレビゲームで一人遊びする今どきの子どもたちには味わえない楽しい遊びの数々だった。昭和の遊びが廃れて久しい。

迎えた第3のピンチ

新井　宏（高崎市・87）

私は過去に2回、生きるか死ぬかのピンチに見舞われたが、幸運にも2回とも蘇生した。その時、「3回目のピンチがあれば、その時は助からないだろう」と思い、覚悟はしていた。世間では昔から「三度目の正直」と言っている。

上毛川柳

田中　寿々夢選

何なくも笑顔の中で年を越す　湯本　良江（渋　川）
今日もまた小さな幸を拾ってく　久保田桂子（前　橋）
相性の炬燵みかんで三ケ日　田島八千代（富　岡）
サイバーが冷戦時代呼び起こし　大沢　覚（高　崎）
東北に六度目の冬伸し掛かる　藤田　俊彦（みなかみ）
年の瀬へ都議が浮き立つ風が吹き　黒崎　和夫（東吾妻）

▽週間賞
農政の不在を示す荒れた畑　佐俣　孝秀（富　岡）

（評）農業の衰退は、食生活の欧米化と同時に、農業の将来を考えない安易な、票を欲しさのバラマキと補助金という、根本を忘れた農政の貧困にあるのだろう。雑草に埋め尽くされて、荒れた放棄田畑を見るにつけ、農業はもとより食生活の明日が不安になってくる。

発表HAPPY

▷レクダンス・前箱田町長寿会女性部（前橋市）▷11月21日・前橋市▷竹林茂吉（前橋市・75）▷東老人クラブで新結成16人が「ＮＯ！詐欺音頭」発表。

2世易八大のきょうの運勢

	吉数	吉色	方位	健康	金銭	異性
1月 今日から３連休。冬の旅は寒い土地が良し	1	青	東北	△	△	○
2月 この出費は合点いかず。納得するまで追究	9	黒	北	○	▲	△
3月 七草がゆ食べて励むべし。歳月人を待たず	5	金	西北	◎	△	○
4月 無理すると風邪をひく。外出避け読書が吉	8	白	西	▲	○	○
5月 深々と降り積もる雪。心も澄み通る沈潜日	3	朱	南東	△	○	△
6月 贈り物やもらい物など物質運盛ん。大吉日	7	銀	西南	○	◎	△
7月 ふと憂愁にとらわれることあり。孤独感が	6	茶	北東	○	△	▲
8月 万物流転。広い観点から物事を見つめて吉	7	黄	南西	▲	○	○
9月 あなたの笑顔が威力発揮。人を魅了する日	3	桃	東南	○	▲	◎
10月 意欲燃やすべし。仲たがいは食事で仲直り	2	緑	東	○	○	▲
11月 連れや知己・畏友との交際に華がある吉日	10	紫	北西	△	○	○
12月 活動的な週末。ふらりと一人旅がおすすめ	4	赤	南	○	△	○

（生まれ月）　（◎最良　○良　△普通　▲注意）

最初は「水難事故」、次は「交通事故」だった。今回は、主治医に「貧血」と言われたが、専門外で原因が分からないという。紹介された前橋市の血液内科で「多発性骨髄腫」と診断された。輸血と薬の試験投与の運びとなりほっとした。

健康長寿を誇っていても、人間には最後は死というえたいの知れないものが待っている。これこそは、いや応なしに誰でも平等である。私は高齢長寿を保ち、老衰で眠るように死ねたら最高の人生と考えていたのだが。あくまで願望であり、そううまく終末が迎えられるか、人知では判断できない。

正月が過ぎると、本格的な治療が始まる。医師も私も一生懸命治そうと努力する。後は私が天から授かった治癒力だけが頼りだ。

7日(先負)　8日(仏滅)　9日(大安)　10日(赤口)　11日(先勝)　12日(友引)　13日(先負)

ぐんまちゃんの掲示板

県ホームページ http://www.pref.gunma.jp/　群馬県広報課 ☎027・223・1111（代表）

女性のためのハッピーキャリア大研究　～基礎編～

期日　1月28日（土）
時間　午後1時～4時30分
会場　ぐんま男女共同参画センター（前橋市大手町）
内容　ワークショップを通して「コミュニケーション」「リーダーシップ」「クリエイティビティ（創造性）」の三つの力を向上させます
講師　安齋徹（県立女子大学国際コミュニケーション学部教授）
対象　県内に在住または在勤している女性
定員　30人（先着順）
費用　無料
申し込み方法　電話、ファクスまたはEメール。郵便番号、住所、氏名、電話番号、託児希望の有無をお知らせください
その他　託児サービスがあります
○対象　2歳～未就学児
○定員　10人（先着順）
○費用　無料
○申込期限　1月14日（土）
○申し込み方法　申込時に、子どもの氏名、性別、年齢をお知らせください
申し込み・問い合わせ先　ぐんま男女共同参画センター（☎027・224・2211　FAX027・224・2214　Eメールアドレスsankakuse@pref.gunma.lg.jp）

近代美術館コレクション展示「書の魅力」

会期　2月26日（日）まで
※月曜日（1月9日を除く）、1月10日（火）は休館
時間　午前9時30分～午後5時（入館は4時30分まで）
会場　県立近代美術館（高崎市綿貫町）
内容　高崎市出身の前衛書家・大澤雅休の作品を中心に、近現代の書を紹介します
観覧料　一般＝300円、大学・高校生＝150円、中学生以下＝無料
※障害者手帳などをお持ちの方とその介護者（1人）は無料です。証明できるものをお持ちください
問い合わせ先　県立近代美術館（☎027・346・5560　FAX027・346・4064）

花と緑の学習館「草木染め講座」

期日　1月19日（木）
時間　午後1時30分～4時
会場　県花と緑の学習館(前橋市柏倉町)
内容　カシの枝や葉で絹を染めます
定員　20人（先着順）
費用　2800円（教材費など）
※ぐんまフラワーパーク年間パスポートを持っている人は2300円
申込期限　1月15日（日）
申し込み方法　ファクス。「草木染め講座」、住所、氏名、電話番号を記入してください
申し込み・問い合わせ先　ぐんまフラワーパーク（☎0120・1187・38　FAX027・283・8389）

館林美術館　県立西邑楽高校との連携事業「特別講義」

期日　1月31日（火）
時間　午後1時30分～3時
会場　県立館林美術館（館林市日向町）
演題　絵画制作を語る
講師　諏訪敦（画家）
定員　30人(申し込み多数の場合は抽選)
費用　無料
申込期限　1月14日（土）消印有効
申し込み方法　往復はがき。往信面に「特別講義」、住所、氏名、電話番号を、返信面に郵便番号、住所、氏名を記入してください
※1枚につき1人まで。家族の場合は1枚で複数人の申し込みも可
申し込み・問い合わせ先　県立館林美術館（〒374－0076　館林市日向町2003　☎0276・72・8188　FAX0276・72・8338）

やま・さと応縁（おうえん）シンポジウム

期日　2月16日（木）
時間　午後1時～4時30分
会場　県庁（前橋市大手町）
内容
○講演会
○演題　農山村地域の活性化に向けて
○講師　吉岡博道（ＬＡＵ公共施設研究所執行役員）
○「やま・さと応縁隊」活動成果発表会
対象　農山村の活性化に興味がある人、大学生など
定員　100人（先着順）
費用　無料
申込期限　2月8日（水）必着
申し込み方法　電話、はがき、ファクスまたはEメール。氏名（ふりがな）、市町村名・学校名など、電話番号をお知らせください
※講演会または活動成果発表会だけに参加する場合は、その旨をお知らせください
申し込み・問い合わせ先　県庁農村整備課（〒371－8570　☎027・226・3152　FAX027・224・8744　Eメールアドレスnousonka@pref.gunma.lg.jp）

群馬県広報課公式ツイッター「フォロワー」募集！
県ホームページに掲載した新着情報や群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」の活動などを発信しています。「ぐんまちゃんクイズ」もあります　アカウント名 @GunmaPref_koho
QRコード【右図】からご覧ください　県庁広報課 ☎027-226-2171　FAX 027-243-3600

風は西から　261

村山　由佳・作
わたべめぐみ・画

このまま『山背（やませ）』との示談交渉が暗礁に乗り上げるよりは、あえて〈社長による公式な謝罪〉という条件を引っ込めて、そのかわりに破格の損害賠償金を支払わせるというやり方もある――とは、何度か佐久間（さくま）弁護士の口からも聞かされていた。

賠償額の大きさは、たちまちニュースとなって世間の耳目にさらされるだろう。それだけでも、『山背』側の一方的な負けであることは明らかだし、金額そのものをはるかに上回る罰にもなる、と。

そうこうするうち、『銀のさじ』本社ビルの社員通用口が見えてきた。

隣を歩く同僚のさと美（み）に（先に行ってて）と目配せすると、千秋（ちあき）は、スマホを耳に当てたまま立ち止まって歩道の端に寄り、空を見上げた。

冬の青が、どこまでも澄み渡る空。雲ひとつない。息を吸い込み、思いきって言った。

「おばさま。私、こんな時でもやっぱり思うんです。健ちゃんだったら、って」

比佐子（ひさこ）は黙っている。息遣いが聞こえた。

「これまでも、いつもそう考えては道を選んできました。ここまでこぎ着けるのに、おじさまとおばさまがどれだけ大変な思いをしてこられたかはわかっているつもりです。私の言うのは夢みたいな無責任な意見かもしれません。でも、健ちゃんだったら……賠償金の額の大きさが間接的な罰になるなんていう考え方は、まどろっこしくて冗談じゃないって言ったような気がするんです」

「チィちゃん」

「本社の報告会に呼ばれて吊（つ）るし上げられて、尊敬していたはずの社長にまで心ない言葉をぶつけられて、どれほど悔しかったか」

「わかった。ようわかったよ」と、比佐子が言った。「私がどうかしとったわ」

「……ごめんなさい、勝手なこと」

「何を謝っとるん。謝るのはこっちじゃ」

比佐子は、むしろ晴れ晴れとした声で言った。

「私ら、難しいことが考えられんけぇ、偉い人からいろいろ言われて何が正しいのやらちんぷんかんぷんになっとったけど、そうじゃ、チィちゃん、あんたの言うとおりじゃわ」

「おばさま」

「あの賢いふりした大馬鹿社長に頭を下げさせんことには、あの世で健介に申し訳が立たんのじゃった。難しいことは考えられんでも、それだけ覚えときゃあええんじゃったわ」